

## カリキュラムの特色 国際社会学科

国際社会学科では、国際関係、経済学、社会学等の諸分野を横断的に学びます。まず、各社会科学の学問分野の基礎を理解させるため、「入門」を置くとともに、各専攻の学問領域の基礎的科目として「基礎講義」を配置しています。これらの科目は主に1、2年次で履修します。さらに、グローバル化の下における国際社会、日本社会について理解を深め、本格的な専門知識の習得を図るため「応用講義」を置いています。両講義部門とも、専攻間の壁をできるだけ低くし、専攻を超えて社会科学及びその隣接専門分野を多様に学ぶことが可能です。また、少人数でのクラス編成で学生自らが主体的に調査をし、発表し議論しあいながら、異なる複数の方法論が必要なことを理解するための「基盤演習」、自分の専門とする学問分野の研究を深め、より高度な知識を蓄積していくための「発展演習」も置いています。以上のように「入門」、「基礎講義」、「基盤演習」から「応用講義」、「発展演習」へと科目群を系統的に配置し、それらの科目を履修することによって、社会科学的手法を身につけ、卒業論文の執筆に備えます。卒業論文は、全員が執筆します。テーマを選び、文献を読み、場合によっては実地調査をしながら仕上げていきます。卒業論文は、大学の勉強の総決算であり、4年間にどれだけ視野を広げ知識を培ってきたか、その全てが問われます。いざという時になってあわてないように日頃から積極的かつ主体的な態度で学習に取り組んでいくことを期待しています。